【FC 東京】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート
小林　将天、佐藤　龍之介

2024 年 8 月 11 日（日）味の素スタジアムで、小林　将天　選手、佐藤　龍之介　選手が公式戦試合運営サポート活動を行いました。

関連部署：運営部、イベント部、事業部、エリアプロモーション部、マーチャンダイジング部、広報プロモーション部、FC 東京スポーツボランティア

活動内容：スタジアム椅子吹き、フードの販売、ノベルティグッズの配布、関係者来賓受付、報道関係者受付、マッチスポンサーブース、試合後のゴミ拾いボランティア

活動目的：クラブ運営の裏側を学び体験することで J リーグやクラブを支えている人々の存在に気づき感謝を実感する。

◎選手のコメント

小林　将天　選手

今回の活動を通して、FC 東京における公式戦の運営方法を学ぶことができました。そして、試合が成立するには沢山の方々の支えがあることを改めて実感しました。それだけでなく、FC 東京というクラブが、ホームである味の素スタジアムにてどのように集客をし、どのようにファンを増やしているかという取り組みについても知ることができました。

自分たちは選手である以上 FC 東京が行っている取り組みについては知るべきであるはずです。これからもスタジアムのスタッフやボランティアの方々への感謝の気持ちを忘れずにプレーをしていきたいと思いました。

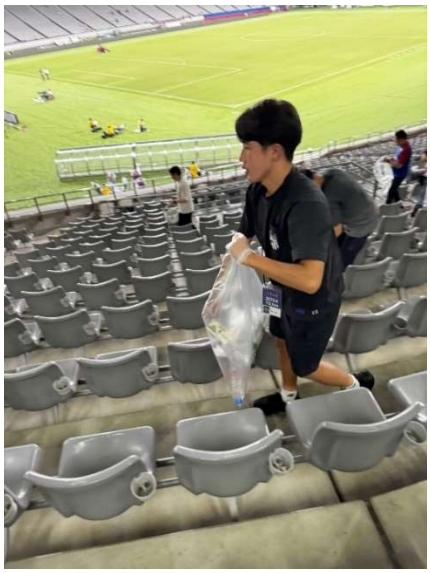
佐藤　龍之介　選手

8 月 11 日に行われた J リーグの試合運営サポートに参加し、クラブ運営の一端を学ぶ貴重な機会になりました。特に来賓受付や試合後のスタジアム清掃など裏方の作業の重要性を体感し、クラブスタッフやボランティアの尽力がファンの満足度向上に直結していることを実感しました。また異なる部署間の連携の重要性を認識し、円滑な運営のためにはコミュニケーションが不可欠であることを再認識しました。このような運営スタッフやボランティアの方々の支えがあってこそピッチの上で最高のパフォーマンスが発揮できるという感謝の気持ちがより芽生えました。

今後はこの経験を糧に選手として、一人の人間として応援される選手になれるよう取り組んでいきたいと感じました

写真提供／FC 東京

INFORMATION
F C TOKYO
F C TOKYO



¥150

【FC 東京】2024Jリーグ新人研修パートナー企業訪問レポート
岡 哲平、安斎 颯馬

2024 年 10 月 8 日（火）味の素株式会社様へ岡 哲平 選手、安斎 颯馬 選手がパートナー企業訪問を行いました。

関連部署：事業部、広報プロモーション部

活動内容：施設見学、企業説明、商品説明、パートナー企業と選手それぞれの立場からの意見交換、質問

活動目的：パートナーとなってくれている企業について知ること
パートナー企業に日頃の感謝を伝える

◎選手のコメント
岡 哲平 選手
日頃からサポートしていただいている味の素株式会社の本社に行きました。
そこで味の素さんがどのような形でサポートしていただいているのかを知ることができました。
アミノバイタルを普段から使用できるありがたみを伝えることができたし、これからもサポートしてもらえるようにチームとして結果を出さないといけないという気持ちになりました。

安斎 颯馬 選手
今回日頃から支えて下さっている味の素株式会社の本社に行き、自分達をサポートしていただいている企業は普段どのようなことをしているのか、またどのような想いで私たち応援しているのかを知ることができた。本社を見学したあとは、実際に毎日のようにお世話になっているアミノバイタル製品について意見交換をした。
アミノバイタル製品について深く知識を得ることができたとともに、選手目線からの意見も伝えることができ非常に有意義な時間だった。

写真提供／FC 東京

AJINOMOTO

amino VITAL

【FC 東京】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
小林　将天

2024 年 5 月 13 日（月）、ドナルド・マクドナルド・ハウスふちゅう、都立小児総合医療センター、榊原記念病院で、小林　将天　選手が、ドナルド・マクドナルド・ハウスふちゅう見学、施設ボランティア、こどもたち、家族、医療従事者とのふれあいのシャレン！活動を行いました。

① 地域・社会課題：
ドナルド・マクドナルド・ハウスの認知度
家族の生活がルーティン化
様々なコニュニティとの隔絶

② 協働者：
FC 東京
日本プロサッカー選手会
ドナルド・マクドナルド・ハウスふちゅう
都立小児総合医療センター
榊原記念病院

③ 活動概要や内容、目的
活動内容
ドナルド・マクドナルド・ハウスふちゅう見学
施設ボランティアとのふれあい
都立小児総合医療センター、榊原記念病院でのこどもたち、家族、医療従事者とのふれあい

活動目的
認知度向上課題へ、実施後の SNS などでの発信
家族の生活がルーティン化している課題へ、プロサッカー選手とふれあうという非日常体験の場面を作る
コニュニティとの隔絶課題へサッカーに興味を持ってもらい新たなコミュニティを知ってもらう

◎選手のコメント
小林　将天　選手
今回、初めてドナルド・マクドナルド・ハウス／ファミリールームや病院を見学させていただきましたが、施設のことや従事されている人、利用されている人などの状況を知ることができてとても良かったと思っています。

僕はいま18歳ですが、このタイミングで知ることができたので、もっと多くの人にまずは知ってもらうために、FC東京の選手として頑張りながら施設のことや活動について広めていきたいと思います。

写真提供／FC 東京

【FC 東京】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
安斎　颯馬

2024 年 7 月 29 日（月）、FC 東京小平グランドで安斎　颯馬　選手が社会復帰のための院生学びの場のシャレン！活動を行いました。

①　地域・社会課題：
社会復帰のための院生学びの場を作る

②　協働者：FC 東京／法務省／多摩少年院／株式会社オフィスショー

③活動概要や内容、目的
サッカー関係の仕事体験を通じてコミュニケーションのとりかたを学び院生の社会復帰をスムーズにできるようにする

◎選手のコメント
安斎　颯馬　選手
今回の活動を通して、改めて自分自身どのような思いでサッカーをしてきたのか、またどのような過去を乗り越えてきたのか振り返る良い機会となった。院生の人たちと会話して、彼らも自分の意志を持ち真っ直ぐな夢を追いかけていて、夢を追いかける姿は応援したくなった。自分も貪欲に夢を追い続け応援される存在によりなっていきたいと感じた。最後に院生でも自分を知ってくれている人がいて、嬉しさと同時に力をもらうことができた。そのような人たちに自分が直接話す機会もそうだし、結果などで力を与えられるような存在になっていきたいと思った。

【FC 東京】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
岡　哲平

2024 年 7 月 29 日（月）、FC 東京小平グランドで岡　哲平　選手が社会復帰のための院生学びの場のシャレン！活動を行いました。

①　地域・社会課題：
社会復帰のための院生学びの場を作る

②　協働者：FC 東京/法務省/多摩少年院/株式会社オフィスショー

③活動概要や内容、目的
サッカー関係の仕事体験を通じてコミュニケーションのとりかたを学び院生の社会復帰をスムーズにできるようにする

◎選手のコメント
岡　哲平　選手
院生と話をしてみて 1 人はネガティブになりやすく新しい環境で不安になりやすいということだった。それに対して自分はとにかく周りに自分を知ってもらえたら良いと思うというアドバイスをした。自分も実際に意識した体験を伝えたのでやってみてほしいです。

【FC 東京】2024Jリーグ新人研修　シャレン！活動レポート
佐藤　龍之介

2024 年 12 月 12 日（木）、13 日（金）J ヴィレッジ、富岡小学校、とみおかアーカイブミュージアムで、佐藤　龍之介　選手が復興支援活動、小学校でのサッカー教室、被災地視察、震災の学び、富岡市の学びのシャレン！活動を行いました。

①　地域・社会課題：

震災から復興支援の継続性、震災を風化させない、被災地の活性化

②　協働者：FC 東京/J ヴィレッジ/富岡小学校/DREAM 福島アクションプラン

③活動概要や内容、目的
復興支援という観点では風評被害などがあった福島県産食品を PR した。
震災を風化させないという観点では富岡アーカイブミュージアムを見学し当時の状況を学び、感じたことを選手たちが継続して学び続けることと震災を伝えていくことを実施した。
被災地の活性化という観点では富岡小学校で児童が元気に過ごせるように一緒にサッカーを楽しんだ。

◎選手のコメント
佐藤　龍之介　選手
選手でメニューやコート、児童の年齢や時間などを考え、実践することで主体性や計画力を養うことが出来たと思う。児童たちの元気な姿を肌で感じることができ、力をもらうことが出来た。
きっと彼らは自分たちのことは知らなかったがこの活動を機にサッカーに興味を持ち、FC 東京や選手に対し興味を持ってくれた子も多くいると感じた。
選手が持っている価値をピッチ外で発揮することが出来たと感じる。
サッカー教室の出来もしっかりと準備した成果を出せたのでやりがいを感じた。
被災地視察や富岡アーカイブミュージアムに行き震災について改めて学ぶことができ震災の影響の大きさと復興の力強さを感じた。
この経験を通じてサッカー選手としてだけでなく、人として地域社会へ貢献する意義を改めて感じました。
これからも自分ができることを考えてこのことを忘れず過ごしていきたい。

写真提供／FC 東京

J-VILLAGE
National Training Center